

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-301288

(43)Date of publication of application : 19.11.1996

(51)Int.Cl.

B65D 25/20

(21)Application number : 07-107433

(71)Applicant : KAO CORP

(22)Date of filing : 01.05.1995

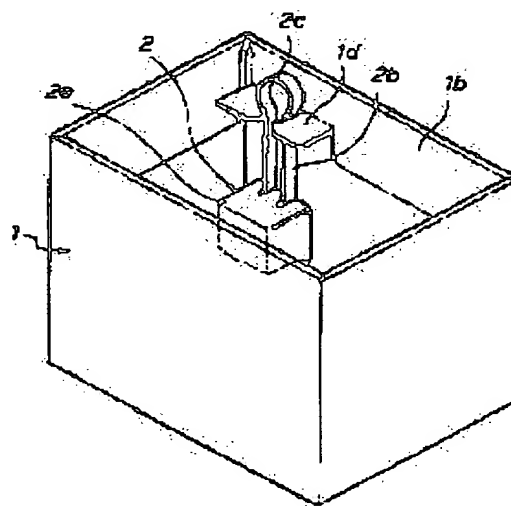
(72)Inventor : IIZUKA SHINJI

(54) CONTAINER WITH MEASURING SPOON

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a container with a measuring spoon, which can be relatively simply produced, and allows the measuring spoon to be stowed in and easily taken out from the container without providing an excessive space.

CONSTITUTION: A container with a measuring spoon 2 contains powder material and the measuring spoon 2 to measure the powder material inside a container main body 1. A spoon fixing member 1d is provided on the inner wall of the container main body 1 and the measuring spoon 2 is removably attached by nipping a part of a handle 2b of the spoon 2 with the spoon fixing member 1d.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japanese Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-301288

(43) 公開日 平成8年(1996)11月19日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 5 D 25/20

識別記号

庁内整理番号

F I

B 6 5 D 25/20

技術表示箇所

K

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平7-107433

(22) 出願日 平成7年(1995)5月1日

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 飯塚 伸二

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
社研究所内

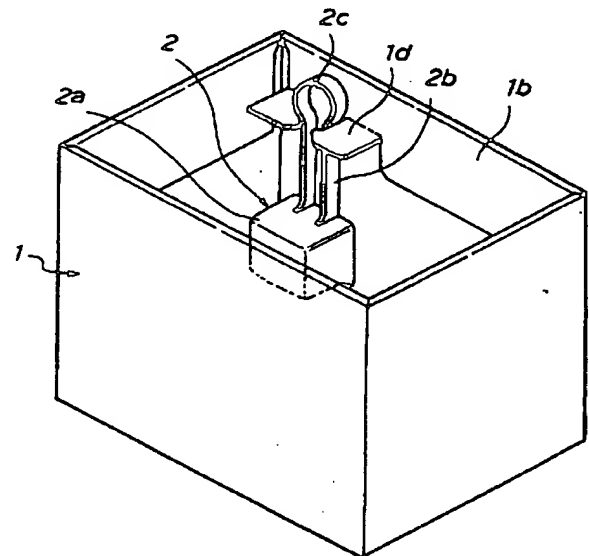
(74) 代理人 弁理士 羽鳥 修 (外1名)

(54) 【発明の名称】 計量スプーン付き容器

(57) 【要約】

【目的】 比較的簡単に製造でき、計量スプーンを、無駄なスペースを作ることなく且つ取り出し容易に収納できる、計量スプーン付き容器を提供すること。

【構成】 粉粒体と該粉粒体を計量する計量スプーン2とを容器本体1内に封入してなる計量スプーン付き容器であって、容器本体1の内壁に、計量スプーン2を、その把手部2bの一部を抱持することによって着脱可能に固定する、スプーン固定部1dを備えたことを特徴とする計量スプーン付き容器。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 粉粒体と該粉粒体を計量する計量スプーンとを容器本体内に封入してなる計量スプーン付き容器において、

上記容器本体の内壁に、上記計量スプーンを、その把手部の一部を抱持することによって着脱可能に固定する、スプーン固定部を備えたことを特徴とする計量スプーン付き容器。

【請求項2】 容器本体は、その開口部近傍の内側に、該容器本体を形成する板体を折り返して形成された重合端部を有しており、

上記スプーン固定部が、前記重合端部の一部を折曲起立させて形成され、上記計量スプーンの把手部を抱持する一対の折曲片からなることを特徴とする請求項1に記載の計量スプーン付き容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、粉状洗剤等の粉粒体とその粉粒体を計量するための計量スプーンとを封入してなる計量スプーン付き容器に関し、更に詳しく言えば、比較的に簡便に製造でき、計量スプーンを、無駄なスペースを作ることなく且つ取り出し容易に収納可能な計量スプーン付き容器に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようする課題】従来より、粉粒体とその粉粒体を計量するための計量スプーンとを封入してなる計量スプーン付き容器は周知である。このような計量スプーン付き容器では、使用時には、容器を開封した後、まず計量スプーンを取り出し、この計量スプーンで粉粒体を計量し、粉粒体の所定量を取り出し使用する。従って、上記容器の製造時には、開封後に計量スプーンが取り出しやすいように、計量スプーンを収納しておくことが必要である。

【0003】計量スプーンを取り出し容易に収納するための技術としては、図5に示すように、容器本体101に粉粒体103を充填した後、その粉粒体103の上に計量スプーン102を載置したものが知られている。しかし、この技術では、粉粒体103を収納するための空間とは別に、計量スプーン102全体を収納するための空間が必要となり、容器が大型化する。そのため、製造コストや運送コストが高騰する上、保存が不便である。更に、使用される場所へ搬送されるまでに、振動等によって計量スプーン102が粉粒体103の中に埋没してしまい、計量スプーン102の場所がわからなくなったり、取り出す際に手を汚したりする欠点がある。

【0004】また、計量スプーンを、埋没しないように封入する技術としては、図6に示すように、計量スプーン102の一部を、容器を封緘する封緘紙104に接着するものが提案されている。そして、この技術では、計量スプーン102が容器本体101の上部に固定され、

搬送中等に粉粒体103の中に埋没するおそれがない。しかし、上述のような従来の計量スプーン付き容器においても、粉粒体103の上に計量スプーン102を収納するので、粉粒体103を収納するための空間とは別に、計量スプーン102を収納するための空間が必要である。加えて、封緘紙104に計量スプーン102を接着したり、封緘紙104を容器本体101に貼付するなど、製造工程に手間がかかる問題点がある。

【0005】従って、本発明の目的は、比較的簡便に製造でき、計量スプーンを、無駄なスペースを作ることなく且つ取り出し容易に収納可能な計量スプーン付き容器を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、粉粒体と該粉粒体を計量する計量スプーンとを容器本体内に封入してなる計量スプーン付き容器において、上記容器本体の内壁に、上記計量スプーンを、その把手部の一部を抱持することによって着脱可能に固定する、スプーン固定部を備えたことを特徴とする計量スプーン付き容器を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【0007】また、本発明は、容器本体は、その開口部近傍の内側に、該容器本体を形成する板体を折り返して形成された重合端部を有しており、上記スプーン固定部が、前記重合端部の一部を折曲起立させて形成され、上記計量スプーンの把手部を抱持する一対の折曲片からなることを特徴とする請求項1に記載の計量スプーン付き容器を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【0008】

【作用】本発明の計量スプーン付き容器によれば、スプーン固定部によって計量スプーンの把手部の一部が抱持され、計量スプーンは、容器本体の内側に固定される。従って、計量スプーンを、粉粒体から一部露出させた状態下に収納することができる。この様に、本発明では、計量スプーンを収納するための空間を、粉粒体を収納するための空間と分けて設けないので、容器が大型化しない。また、計量スプーンは、一部を粉粒体から露出した状態で収納され、搬送途中の振動等によって粉粒体中に埋没することがない。従って、開封時に、迷わずかつ手を汚さずに計量スプーンを取り出すことができる。また、計量スプーンの接着や封緘紙の貼付等の手間をかけることなく計量スプーンを固定することができる。

【0009】

【実施例】以下、本発明の計量スプーン付き容器の一実施例について、図面を参照しながら具体的に説明する。図1は、本発明の計量スプーン付き容器の実施例の粉粒体充填前の状態を示す概略斜視図、図2は図1の計量スプーン付き容器に係る容器本体の重合端部の要部正面図、図3は図1の計量スプーン付き容器に係る計量スプーンの概略斜視図、図4は、図1の計量スプーン付き容

器であって、粉粒体が充填された状態を示す概略斜視図である。

【0010】本実施例の計量スプーン付き容器は、粉粒体3と該粉粒体3を計量する計量スプーン2とを容器本体1内に封入してなるものであって、容器本体1の内壁に、計量スプーン2をその把手部2bの一部を抱持することによって着脱可能に固定する、一対の折曲片1c、1c（スプーン固定部）を備えている。

【0011】本実施例について更に詳述すると、本実施例の計量スプーン付き容器の容器本体1は、図1に示すように、上面が開放された長方形状をなしている。この容器本体1は、所定形状に形成した1枚の板体を折曲接合して形成されている。また、この容器本体1は、開口部近傍の内側に、該容器本体1を形成する板体を折り返して形成した重合端部1bを有している。この重合端部1bは、開口部寄り側のみが接着されており、縁端近傍は外側の部材とわずかに離間している。重合端部1bには、図2に示すように、縁端から開口部方向へ切り込み1cが入れられており、この切り込み1cを介して重合端部1bの一部を容器本体1内方に起立させることによって、一対の折曲片1d、1dが形成されている。それぞれの折曲片1d、1dは、その端部に、他の折曲片1d側へ膨出する突起部1eを有している。また、それぞれの折曲部1dの上端には、折り線1fが入れられている。折曲片1dは、この折り線1fを軸として回転するように折曲されて形成されている。

【0012】計量スプーン2は、図3に示すように、掬い入れ部2aと、この掬い入れ部2aに連設された把手部2bとを備えている。把手部2bの幅（図3中に示すW）は、突起部1e間の距離（図2中に示すw）よりも大きくなっている。また、把手部2bの端部は膨出され、略円板形の係止部2cが形成されている。この計量スプーン2は、前記容器本体1の一対の折曲片1dによって把手部2bの一部を抱持されるとともに、係止部2cが折曲片1dに当接している。これによって計量スプーン2は、容器本体1の内側に、掬い入れ部2aを下に懸吊させた状態で、固定されている。粉粒体3は、図4に示すように、折曲片1dのすぐ下迄充填されている。

【0013】上述した計量スプーン付き容器の容器本体1は、板体を成形する際に切り込み1cを入れておき、その後は、従来のこの種の容器本体と同様に製造することができる。そして、一対の折曲片1d、1dを容器本体1の内方へ起こし、折曲片1d間に計量スプーンを挿入すると、計量スプーン2が固定される。その後、粉粒体3を充填し、本実施例の計量スプーン付き容器を得る。

【0014】本実施例の計量スプーン付き容器は、計量スプーン2の把手部2bの一部が抱持され、容器本体1内に懸吊した状態で収納される。従って、搬送途中の振動等によって計量スプーン2が粉粒体3中に埋没され

ることがない。また、計量スプーン2は、係止部2cを粉粒体3の上方に露出した状態で収納されており、開封時に計量スプーン2が見える。従って、迷わずかつ手を汚すことなく計量スプーン2を取り出すことができる。特に本実施例では、折曲片1dが粉粒体3から露出されているので、計量スプーン2が折曲片1dに固定されている様子がわかり、迷うことなく適切な方法で計量スプーン2を取り出すことができる。更に、計量スプーン2全体を粉粒体3と別に収納するための空間が必要ないので、容器全体が大型化されず、製造コストや搬送コストの高騰を回避することができる。また、保管にも便利であり、更に使用後のゴミ量の低減に寄与することができる。加えて、粉粒体3より上の空間が少ないので、消費者に実直感を与えることができる。

【0015】また、容器本体1の板体を形成する際に折曲片1dをとともに形成するだけで、計量スプーンの接着や封緘紙の貼付等の手間をかけることなく、計量スプーン2を固定することができる。

【0016】本発明は、上述した実施例に限定されるものではなく、具体的な各部材の形状や寸法、或いは各々の取付位置等は適宜変更可能である。例えば、計量スプーンの係止部は、把手部に楔型の凹部を形成したものでよい。また、把手部を縁端にいくに従って大きな幅に形成し、この把手部の端部を係止部としてもよい。更に、容器本体の深さ、スプーン固定部の位置、及び計量スプーンの長さ相互間の関係において、掬い入れ部を下に懸吊固定させた際に、計量スプーンが容器本体の底部に当接する場合には、係止部を設けなくてもよい。一対の折曲片は、重合端部の、隣接する面からそれぞれ1つつつ切り出して設けてもよい。

【0017】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1に記載の発明によれば、計量スプーンを、一部のみ粉粒体から上に露出した状態で、収納しておくことができる。従って、計量スプーン全体を粉粒体と別個に収納するための空間を特に設けることなく、計量スプーンが粉粒体中に埋没することを回避し、計量スプーンを容易に取り出し可能に収納することができ、容器の一層の小型化を図れる。更に、容器本体を製造する工程において容易にスプーン固定部を設けることができ、このスプーン固定部によって計量スプーンを固定できる。従って、計量スプーンの接着や封緘紙の貼付等の手間なく、比較的簡便に、計量スプーン付き容器を製造することができる。

【0018】請求項2に記載の発明によれば、スプーン固定部を、容器本体の重合端部と一体に成形することができるので、比較的簡便に、計量スプーン付き容器を製造することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の計量スプーン付き容器の一実施例の粉粒体充填前の状態を示す概略斜視図である。

【図2】図1の計量スプーン付き容器に係る重合端部の要部説明図である。

【図3】図1の計量スプーン付き容器に係る計量スプーンを示す概略斜視図である。

【図4】図1の計量スプーン付き容器であって、粉粒体が充填された状態を示す概略斜視図である。

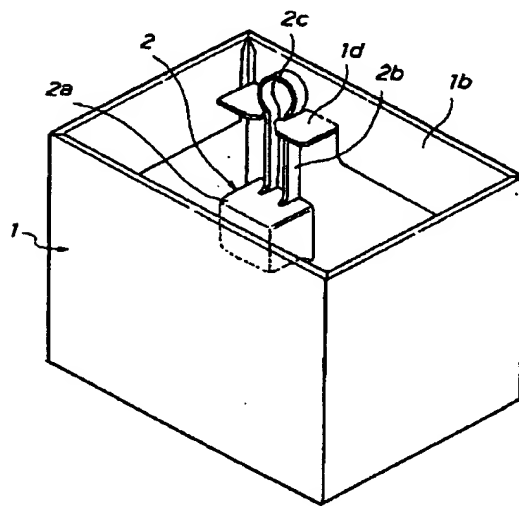
【図5】従来の計量スプーン付き容器の一例を示す縦断面図である。

【図6】従来の計量スプーン付き容器のその他の例を示す縦断面図である。

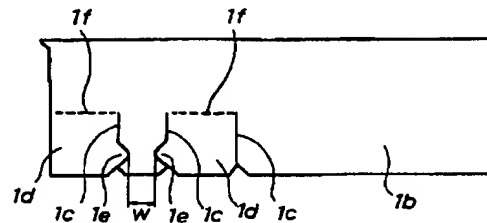
【符号の説明】

- * 1 容器本体
- 1 b 重合端部
- 1 c 切り込み
- 1 d 曲折片
- 1 e 突起部
- 1 f 折り線
- 2 計量スプーン
- 2 a 掬い入れ部
- 2 b 把手部
- 2 c 係止部
- 10 2 c 係止部
- * 3 粉粒体

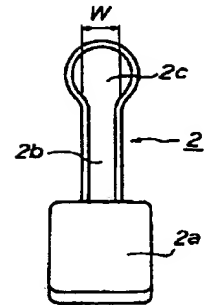
【図1】



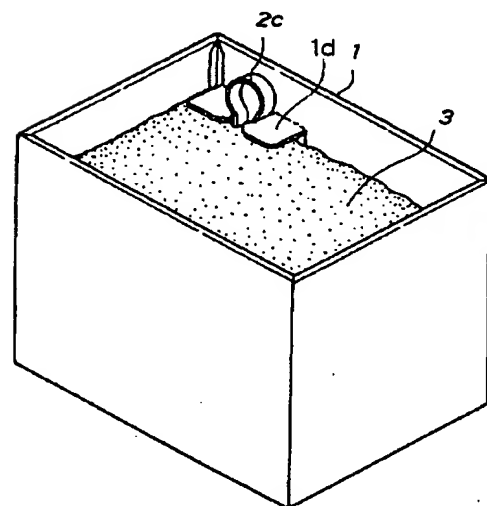
【図2】



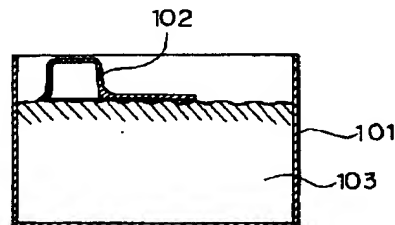
【図3】



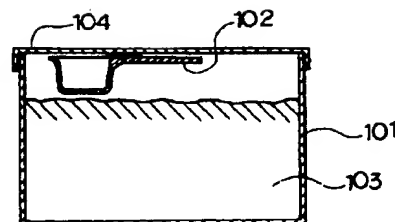
【図4】



【図5】



【図6】



【手続補正書】

【提出日】平成 7 年 5 月 8 日

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正内容】

【0009】

【実施例】以下、本発明の計量スプーン付き容器の一実施例について、図面を参照しながら具体的に説明する。図 1 は、本発明の計量スプーン付き容器の実施例の粉粒体充填前の状態を示す斜視図、図 2 は図 1 の計量スプーン付き容器に係る容器本体の重合端部の要部正面図、図 3 は図 1 の計量スプーン付き容器に係る計量スプーンの背面図、図 4 は、図 1 の計量スプーン付き容器であって、粉粒体が充填された状態を示す斜視図である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の計量スプーン付き容器の一実施例の粉粒体充填前の状態を示す斜視図である。 *

*【図 2】図 1 の計量スプーン付き容器に係る重合端部の要部説明図である。

【図 3】図 1 の計量スプーン付き容器に係る計量スプーンを示す背面図である。

【図 4】図 1 の計量スプーン付き容器であって、粉粒体が充填された状態を示す斜視図である。

【図 5】従来の計量スプーン付き容器の一例を示す縦断面図である。

【図 6】従来の計量スプーン付き容器のその他の例を示す縦断面図である。

【符号の説明】

- 1 容器本体
- 1 b 重合端部
- 1 c 切り込み
- 1 d 曲折片
- 1 e 突起部
- 1 f 折り線
- 2 計量スプーン
- 2 a 掬い入れ部
- 2 b 把手部
- 2 c 係止部
- 3 粉粒体

【手続補正書】

【提出日】平成 7 年 5 月 30 日

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正内容】

【0010】本実施例の計量スプーン付き容器は、粉粒体 3 と該粉粒体 3 を計量する計量スプーン 2 とを容器本体 1 内に封入してなるものであって、容器本体 1 の内壁に、計量スプーン 2 をその把手部 2 b の一部を抱持することによって着脱可能に固定する、一対の曲折片 1 d、1 d (スプーン固定部) を備えている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の計量スプーン付き容器の一実施例の粉粒体充填前の状態を示す概略斜視図である。

【図 2】図 1 の計量スプーン付き容器に係る重合端部の

要部説明図である。

【図 3】図 1 の計量スプーン付き容器に係る計量スプーンを示す概略斜視図である。

【図 4】図 1 の計量スプーン付き容器であって、粉粒体が充填された状態を示す概略斜視図である。

【図 5】従来の計量スプーン付き容器の一例を示す縦断面図である。

【図 6】従来の計量スプーン付き容器のその他の例を示す縦断面図である。

【符号の説明】

- 1 容器本体
- 1 b 重合端部
- 1 c 切り込み
- 1 d 曲折片
- 1 e 突起部
- 1 f 折り線
- 2 計量スプーン
- 2 a 掬い入れ部
- 2 b 把手部
- 2 c 係止部
- 3 粉粒体